

ご挨拶

沖縄県医師会 理事 富名腰 亮



このたび沖縄県医師会理事を拝命いたしました海邦病院の富名腰亮と申します。まだまだ若輩ではありますが、医師会活動を通して地域の医療に貢献できるよう力を尽くしてまいります。

私は宜野湾市で生まれ育ち、2010年に昭和大学を卒業後、県外で数年を過ごしました。その後沖縄に戻ってからは琉球大学病院第三内科（腎グループ）で学び、2021年より父のあとを引き継いで、海邦病院の院長として地域医療に携わっております。

地元宜野湾市における健康増進の一環として慢性腎臓病対策プロジェクトを立ち上げ、その際に中部地区医師会の先生方にご指導いただきました。そのご縁もあり、2024年からは中部地区医師会の理事を務めさせていただきます。県医師会との関わりでは、若手医師の会「Team F-Vision (Future Vision)」の立ち上げに際しお声がけをいただきました。全国的に医師会の組織率低下が課題となる中、とくに若手医師の医師会への関心の低さは見過ごせない問題です。医師会は大切な存在だと理解しつつも、自分に関わる実感が湧きにくいというのが私の世代の医師の声だと思います。日常診療の忙しさや活動の見えづらさ、世代間の距離感など、医師会参画への障壁は決して小さくありません。一方で、感染症対応や災害医療、学校保健活動、地域連携の推進など、医師会が果たしている役割は広く、地域の医療体制を支えるためには欠かせない存在です。今回、県医師会理事という立場をいただいたことで、医師会活動が同世代の医師にとって身近な存在となるよう、橋渡しのような役割も果たしていければと思っています。

県医師会では現在、「おきなわ津梁（しんりょう）ネットワーク」という新しい医療情報連携の仕組みづくりに取り組んでおります。このネットワークは、電子カルテや健診データ、画像情報、処方歴など、患者に関わる重要な医療情報を施設の垣根を越えて共有できる仕組みです。救急搬送や紹介・逆紹介、慢性疾患管理の場面でも、迅速かつ適切な診療を可能にし、医療の質と安全性の向上に寄与します。今回このおきなわ津梁ネットワークを推進していく役割をいただきました。

医師会員の皆さまにおかれましてもご多忙とは存じますが、この取り組みの趣旨をご理解いただき、ぜひご協力を賜れば幸いです。

諸先輩方のご指導を仰ぎながら、一つひとつ学び、歩みを進めてまいります。どうか温かく見守っていただけましたら幸いです。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

